

2024 年度 名古屋芸術大学 入学試験問題  
特別選抜「3 年次編入学試験 1 期」

## 入試問題

試験科目：「小論文」

日 程：2023 年 11 月 18 日 (土)

試験時間：50 分 / 解答字数：800 字程度

---

教育学部 子ども学科

対象コース： 全コース

---

### [課題]

以下の 1、2 のいずれかを選択して回答してください。

1. 学校教育においては、主に集団に焦点を当てて、集団や社会の一員として求められる資質や能力を身に付けるように働きかける生徒指導の側面と、主に個に焦点を当てて、個人の資質や能力の伸長を援助する教育相談の側面があり、「指導」と「援助」という一見相反する二面性が存在します。集団での教育を基盤とする日本の学校教育においては生徒指導の発想が強くなりがちであり、生徒指導の一環として位置づけられる個を重視した「教育相談」の必要性が近年ますます高まっています。

以上のことから、集団指導における個別の援助のあり方を「児童生徒理解」「早期発見」「援助資源」「連携」の観点を入れつつあなたの考えを述べてください。

2. 幼児教育、保育においては、保護者へのコンサルテーションが園児支援に係る大きな役割を担っています。一方で、保育者が保護者の相談に対し、何とか力になろうと解決策を見出しアドバイスや提案をすることがかえって保護者の負担になることが考えられます。保育者として、子育てに不安を抱える保護者から相談を受けた際の対応について、「寄り添い」「助言」「つながり」の観点を入れつつあなたの考えを述べてください。

[出題の意図等] ※問題用紙には記載されません。

1. 主に集団に焦点を当てた日本の学校教育の現場では、学業不振、不登校、いじめなど集団を重視しすぎることによって起こる様々な問題が散見されます。昨今ますます教育の個別化の必要性が増す中で、集団での「指導」の中に個の「援助（支援）」の観点を入れることが重要となる一方で、集団がベースの現状で個を重視しすぎると返って混乱を招いてしまうことが考えられます。「指導」と「支援」という一見相反する関わりが必要とされる教員の「援助（支援）」のあり方について、①個としての児童生徒理解（アセスメント）、②早期発見による予防、③援助資源の活用、④役割分担、専門性等、学校内外を問わないチーム援助の観点で評価します。

2. 保育において保護者との相談は子どもの健全な成長発達を支える上で重要な役割といえます。一方で、保育者がその専門性をそのままに保護者にアドバイスや提案として伝えても、理解はできても実行できない状況にあったり、不安を抱えている最中、それらを受け止められないことがあります。相談は保育者が即解決を図るものではなく、保護者の話に耳を傾け、想いを汲み取り、それを元に負担のない実行可能な「助言」（本来の意味での「助けとなる言葉」）を行ったり、それについてフィードバックを行ったり、時に他の保護者や外部機関とのつながり等環境調整を行うことが重要であり、それらの相談における観点を評価します。

2023 年度 名古屋芸術大学 入学試験問題  
特別選抜「3 年次編入学試験 3 期」

## 入試問題

試験科目：「小論文」

日 程：2024 年 3 月 20 日 (水)

試験時間：50 分 / 解答字数：800 字程度

教育 学部 \_\_\_\_\_ 子ども 学科 \_\_\_\_\_ 領域 \_\_\_\_\_

対象コース： 全コース

### [課題]

子どもの持つ権利について、国連の子どもの権利条約※の 4 つの原則の一つに「子どもの意見の尊重」(子どもの声を大切にすること) というものがある。その原則を具体的に示した「意見表明権」(第 12 条) を保障するために、どのようなことを行ったらよいと考えますか。日々子どもと密接に関わりを持つ教育者や保育者が行える取り組みや心がけるとよいことを、次の観点①②を踏まえてあなたの考えを述べなさい。

① 子どもが自分の思いや意見、考えを述べやすい環境づくりの意義と方法について

② 他者や友達の思い、意見に耳を傾けることができる仲間関係・クラスの雰囲気づくりの方法について

※子どもの権利条約(児童の権利に関する条約)は、世界中すべての子どもたちがもつ権利を定めた条約。1989 年国連総会において採択された。日本は 1994 年に批准している。

### [出題の意図等] ※問題用紙には記載されません。

子どもの権利条約の 4 つの原則の一つに挙げられている「子どもの意見の尊重」(子どもの声を大切にすること) について、その意義を捉えながら教育・保育の現場の中でいかに具現化して実践に結び付けていくかを問う。また、子どもが意見表明できる力を養うことが今後の発達・成長過程にどのような影響を与えるか、捉えることもねらいとしている。

本テーマにおいて、子どもの意見表明権保障の意義と社会生活との繋がり、子どもの状況をイメージして捉え、教育・保育現場で想定できる取り組みや心がけについて考察・意見の論述が求められる。構成も自己意見と論拠について筋道を考えて論理的にまとめられていることが求められる。